



# 明日へつなげる岐阜市の自然

自然ふれあい活動支援ワークショップ

第83号 平成21年11月発行

## ○はじめに

岐阜市には、金華山、長良川をはじめとした誇るべき自然環境が多くあります。その一方、生活環境の変化、生活基盤を支える様々な整備により、貴重な自然環境が減少しているのもまた事実です。

このような状況の中、岐阜市の素晴らしい自然を市民・地域共有の財産として次世代へと引き継ぐため **市民と行政の協働による「自然ふれあい活動」**に取り組みます！！



## 金華山地域 達目洞でのお米作り&竹の間伐

- ・達目洞のお米を収穫だ！！（10月17日）
- ・「こよみのよぶね」を陰で支える竹材の切り出し（11月21日）

## ○達目洞のお米を収穫だ！！

毎年恒例となった達目洞の収穫祭が、10月17日（土）に開催されました。今年のお米づくりは岐阜市の市民活動支援事業の助成を受けており、家族連れを中心に多くの皆さんに参加を呼びかけて行いました。

稲刈りは、地元の方の鎌を使った実演で、幼稚園児にも分かりやすく教えてもらいました。その後は一斉に田んぼに入って稲刈りです。尻もちをつく子や柔らかい田んぼで長靴が抜けなくなってしまう子もいる中、わいわいと楽しい稲刈り体験となりました。

刈り取った稲は“はざがけ”と呼ばれる昔ながらの天日乾燥をするために、ワラで縛ってまとめていきました。一見簡単に見える作業ですが、やってみると意外に難しく、大人たちも悪戦苦闘でした。このようなはざがけ作業も参加者にとっては新鮮な体験だったようです。





岐阜大学教育学部の学生たちも収穫祭に参加しました。自分たちで刈り取った稲を昔ながらの段取りで天日干しにします。



収穫が終わった後は、参加者全員で豚汁を食べました。作業の後の豚汁は最高です！

収穫とはざかけを終えた後は、達目洞自然の会の方々から豚汁が振舞われました。頑張った後にみんなで食べる豚汁は格別の美味しさでした！

### ○「こよみのよぶね」を陰で支える竹材の切り出し

皆さんは「こよみのよぶね」をご存知でしょうか。岐阜市出身のアーティスト、日比野克彦さん監修のもと、多くのボランティアが制作した巨大な行灯を屋形船にのせて、冬至の日の長良川に流すイベントです。実は、こよみのよぶねの巨大行灯の骨組みと支柱は、達目洞産の竹が使われています。

そこで今年も、達目洞の奥に広がる竹林から材の切り出し作業を行いました。竹を材料として切り出すことで達目洞の竹藪が美しい竹林へと変化していくのは、真の里山再生の姿であり本当に嬉しいことです。

また、様々な活動が達目洞とつながっている事を実感する活動のひとつであり、このような繋がりを広げることが達目洞の更なる保全にも繋がっていくことでしょう。

### ○おわりに

達目洞の活動には多くの人たちが、様々な形で関わっていることを実感しました。中でも、食べ物を通じた自然とのふれあいは重要な要素です。新米おにぎりを頬張る子どもたちの表情がそのことを物語っていると思いませんか？



こよみのよぶねの骨組みに使う竹を伐採していきました。あの骨組みに達目洞の竹は活躍しているのです！！



10月の収穫祭でとれたお米を炊いてみんなで試食をしました。塩おにぎりを食べた幼稚園児も大満足のおいしさでした。



## 岐阜市自然ふれあい活動に関する問い合わせ

岐阜市 自然共生部 自然環境課 担当：吉村

TEL：058-265-4141（内線：6451） FAX：058-267-1374

E-mail：shizen@city.gifu.gifu.jp

岐阜市の自然のポータルサイト「ぎふネイチャーネット」

<http://www.gifu-nature.net/>

自然環境課ホームページ：http://www.city.gifu.lg.jp/c/12050000/12050000.html